

"いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも"

# 一食を捧げる運動

# ニュースレター



VOL. **05**  
2018.November

## CONTENTS

### 一食地域貢献プロジェクト 活動紹介

- 地域への貢献 金沢教会
- 「一食運動」のさらなる推進 掛川教会
- プロジェクトが促す人材育成 仙台教会

### 一食地域貢献プロジェクトQ&A

PJの質問に何でもお答えします

【一食人のつぶやき】



「一食」を捧げる運動の推進に  
関係する人々へ

子ども食堂

## 一食地域貢献プロジェクト Q&A

PJの質問に何でもお答えします

### Q. 地域貢献プロジェクトって何？

**A.** 教会に集められた「一食運動」によるご浄財の一部(前年の2割以内)を、地域のボランティア団体やNPOなどに支援する教会単位の活動です。プロジェクトの目的は、①団体への支援を通じてあたたかい地域づくりに貢献する、②「一食運動」のさらなる推進、③平和・社会活動に貢献する人材を育成する、の3点に集約されます。

### Q. 私たちの教会も参加できますか？

**A.** 希望するすべての教会が参加できます。2019年のプロジェクトについては12月にご案内いたします。

### Q. 委員会の主な役割は何ですか？

**A.** 支援先団体の選定と各種手続き、教会内での「一食運動」の啓発が主な役割です。委員会は委員長を含めて5人以上で構成します。委員長は教会長か教会長から委嘱された人が担います。委員の任期は1年単位です。

### Q. 支援団体の情報収集や選定の方法は？

**A.** 委員会として大切にしたい点を検討し、それに合う団体を選びます。日ごろのつながりや新聞、タウン誌などの情報誌、自治体や社会福祉協議会が提供する情報、各団体のホームページから情報を収集できます。

①教会の包括地域で活動するか、拠点がある、②非営利団体である、③「一食運動」の支援対象となる活動(高齢者・生活困窮者・障がい者自立・子育て支援のための活動、環境保全、人権擁護など)を行っている団体が支援の対象となります。

プロジェクトに関するご質問、ご相談は、  
青年ネットワークまで  
お気軽にお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

立正佼成会青年ネットワークグループ  
(一食平和基金事務局)

〒166-8537 東京都杉並区和田2-11-1  
Tel.03-5341-1661 Fax.03-5341-1055

表紙イラストにある  
「子ども食堂」とは？

貧困や孤食の子どものために、無償か安価で食事を提供する活動



いちじきびと  
一食人のつぶやき



まゆまゆ

平成24年入職。27年青年ネットワークグループ配属。最近大きな冷蔵庫を買ってウハウハ。しかし料理が苦手なので活用しきれずに悩む日々を送る。

episod-e-04  
あたたかな地域へ

一食を捧げる運動の推進に関わる「一食人」たちによるコラム。  
今回は、この人「まゆまゆ」です。

地元は山梨、天真爛漫に育ちました。ご近所さんは、いつも優しくかったです。近所の家にドカドカッと入っては、その家の犬と戯れたり、私が野良犬に追いかけられたときに「助けてー!」と叫んだら、たくさんの方が出てきてくれて追いついてくれました。

ほかにも素晴らしいところは、歩いているときに通りすぎる人とちゃんとあいさつをする習慣があることです。その人を知っていようといまいと、必ず「こ

んにちは!」と言います。「どこの子だい?」と聞かれ、そこから会話が弾むことも多々ありました。

今、東京に住んで10年。一番びっくりするのは人の多さです。一人一人にあいさつをするのも、なかなか難しい日々です。まず、身近なアパートに住んでいる人にあいさつをしていくことにしました。すると、返してくれる人や顔見知りが出てきました。あたたかな地域づくりのため、私にできる小さなことから始めていきます。

プロジェクトが促す人材育成

学びと感動の場になっている

仙台教会

仙台教会は、青年を中心に委員会を立ち上げ、一食地域貢献PJに3年前から参加してきました。仙台市市民活動サポートセンターなどで情報収集し、巡回して遊び場を提供する団体などを支援しました。

なかでも、「仙台に夜間中学をつくり育てる会」は、スタッフが無報酬で取り組んでおり、生徒が増えて行政も動き始めたところです。信頼を築いてきた委員会は、2年前に続いて今年再び支援しようと考えています。

支援先との関係をつくる上で見てきたことは、PJが青年にとって確実に学びの場、感動の場になっていることです。「一食運動」責任者の鹿内敬祐さん(41)は、「地域にある多くの団体を知ることができ、委員のみんなが、地域の人の抱えるいろいろな問題を考える機会を得られます」。青年男子部長の阿部光一朗さん(42)も「支援団体の人たちは菩薩さまですから、話を伺うと刺激になり、感動します」と、人材育成につながる効果を強調します。

さらに今年は、委員9人のうちの約半数を壮年が担うことで青年の視野が広がり、団体と自主的にかかわる壮年の姿は、青年にとって学びの機会にな



贈呈式で、「仙台に夜間中学をつくり育てる会」の代表・中澤八榮氏に目録が手渡されました  
(写真:2016年12月/仙台教会提供)



異なる世代が集まると違う視点で意見交換できます  
(左から鹿内さん、阿部さん、土井さん)



金沢教会の一食地域貢献PJで支援している団体のフリースクール(NPO法人ワンネススクール)が開催した、田植え体験に参加(写真:2018年5月/金沢教会提供)

「一食運動」のさらなる推進  
誰もがお役に立ちたい



「数か月間だけでも献金箱を置かせてください」とお願いしたいといいます。

手どり先で(右から支部長の榎原さん、主任の出野さん、主任の村上さん)

すると、思いのほかたくさんの方が実践してくれました。「今年は災害が多かったため、被災者の方々のことを思い、胸を痛めて、自宅の献金箱に献金される人たちが多かったです」と、主任の出野恭代さん(74)。

なかには、リーフレットを読んで「一食運動」の精神に深く賛同し、校友会に入会する人もあらわれました。「困っている人のお役に立ちたい心が、誰にでもあり、一食がその心を行う動に移す。機縁(きご縁)になっています」と、榎原さんは語ります。

一食  
地域貢献  
プロジェクト  
活動紹介

一食地域貢献プロジェクト(以下:一食地域貢献PJ)には、三つの願いが込められています。一つは地域への貢献。二つは「一食運動」のさらなる推進。三つは人材の育成。これらの願いをもとに、どんな活動が展開されているのかを伺いました。

3教会の取り組みを取材!

掛川教会

昨年、掛川教会では、一食地域貢献PJの贈呈式は、ご命日式典のなかで行われました。「一食のご浄財がこんなに身近な地域で、人々のお役に立っているのかと、あらためて実感しました」と、掛川南支部長の榎原位江さん(70)。

教会では、PJメンバーとして支部長が全員参加することになっており、榎原さんもそのうちの一人です。



榎原さんは当初、自分の受け持つ支部の献金額が、どの支部よりも低いことから、「一食運動」の精神が少し忘れられているのではと懸念がありました。そこで、このPJをきっかけに、支部でその精神(同悲・祈り・布施)を再確認。そして、主任たちと手どりを通して、「一食運動」を推進しようとして話し合いました。

毎月一日と十五日の布教日には、自ら一食を抜いて手どりに歩き、家々に献金箱とリーフレットを置かせてもらいました。主任の村上かよさん(74)は、未会員の方には、

地域への貢献

困った状況に、手を差し伸べたい

金沢教会

現在、6名からなる金沢教会の一食地域貢献PJのメンバーは、支援先団体を選定するときの基準として、次の6つの項目を大切にしています。

それは、「命の尊重」「笑顔と元気」「課題の解決」「熱意」「持続性」「規模」です。

「ご浄財が少しでもきちんと地域のお役に立って頂きたいという願いがあるからです」と、副PJリーダーの八島和人さん(61)。

最近、印象深い出来事がありました。それは難聴で生まれた子どもの自立支援に、ほとんど無償で取り組んでいる市民団体に出合ったことでした。団体の人たちが、願いをもって地道に取り組んでいる姿に、PJメンバーの一人が、「地域には、困っている人に、こんなにもひたむきに、菩薩行をされる方々がいる」と感慨深げに話したといいます。

その後、PJメンバーで、これら



石川県羽咋(はくい)市のパン屋にも献金箱が置かれています  
(写真:2017年5月/金沢教会提供)

の学びを会員にお伝えするとともに、もっと地域に目を向けていくことの大切さと呼びかけたいと、毎月の各ご命日式典で、5分間の体験発表を行うことにしました。

「まだまだ試行錯誤の段階ですが、会員さんたちと一緒に、慈悲の心をもって地域の困った状況に手を差し伸べられる、そんな「一食運動」が展開できればと思っています」とPJリーダーの永原伸一郎さん(53)は願いを抱きます。



一食地域貢献PJリーダーの永原さん(左)と、副リーダーの八島さん(右)